

釜蓋遺跡は県内でもめずらしい環濠遺跡、吹上遺跡とともに確実な保存を！



上越市大和地内の新幹線新駅周辺整備事業地で、「釜蓋(かまぶた)遺跡」が発掘されたことが、11日の市議会全員協議会で報告されました。

この「釜蓋遺跡」は、約1800年前の弥生時代後期から古墳時代初期にかけてのもの。幅2～5㍍、深さ2㍍程度の三重の環濠(かんごう)が巡らされている環濠集落と呼ばれるもので、「佐渡を除く新潟県内では初めて発見された平地の環濠(かんごう)集落」(市生涯学習課)といわれる極めて貴重な遺跡です。

約4㍍の試し掘りでは、三重の環濠とそこから大量の木の板や弥生時代後期の土器が発掘されました。遺跡はさらに南に広がっているもようです。遺跡の東側は、当時川であったのではないかと推測され、「川を利用した物流の拠点であった可能性が高い」(同)と指摘されています。

この遺跡の南約1.5kmの所には、ヒスイの加工場跡などが発掘されて注目された吹上遺跡(弥生中期～古墳時代)があります。さらに、南西1.5kmの所には、国史跡の斐太(ひだ)遺跡(弥生時代後期、山地性の環濠集落)があります。まさに、「弥生の遺跡ベルト地帯」という状況です。

年代的には、斐太遺跡が活動を終えた直後に、釜蓋遺跡に人が

住んだものと考えられ、両遺跡の時代をまたがって吹上遺跡が活動していたと考えられています。こうしたことから、専門家からは、「3か所の遺跡をトータルに検証すべきである」と指摘され

ています。

釜蓋遺跡が発掘された所は、北陸新幹線上越駅(仮称)の開業に向けて上越市が進めている新駅周辺土地区画整理事業区域内で、現脇野田駅の西側約四百㍍の地点です。区域内の換地用地として整備が進められようとしていました。市教育委員会では、「この遺跡は保存したい」とし、新幹線建設対策課でも、「新幹線の路線にかからない。事業に支障をきたさないように協力して対応していきたい」としています。

上越市では10年程前、弥生時代の高地性集落であった裏山遺跡を、高速道路建設で破壊してしまった苦い経験があります。

その時、日本共産党上越市議団は、議会でも史跡の保存に向けた質問・提言を重ね、市も「今後発掘されるものについては、地域の貴重な資産として残したい」と答弁。その後、埋蔵文化財センターがつくられるなど、行政全体が遺跡の保存について積極的に対応しています。

上越地域消防事務組合では北消防署など管内の4つの消防署庁舎の耐震診断をすすめてきましたが、このうち、東頸消防署庁舎(安塚区)については、耐震補強が全面的に必要であることが、このほど明らかになりました。

東頸消防署庁舎、耐震診断で「問題あり」

組合では、このままでは、大きな地震で倒壊の恐れもあるとして、耐震性のある施設を借用するなどの緊急対応の検討に入りました。このことは来月1日の臨時議会で正式に報告され、借用施設の改装などの経費が補正予算で計上される見込みです。



日本共産党上越市議団ニュース

29 2005年11月20日

連絡先 杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
樋口良子 544-6802 (中門前3)
橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)
事務局長 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)